

第 2 表

試験片	試験 静的曲げ強さ σ_1 kg/mm ²	10 ⁷ 回に対する 繰返し曲げ強さ σ_2 kg/mm ²	σ^2/σ_1 (%)
A	25.90	8.5	32.8
B	20.35	6.0	29.5
C	26.17	9.0	34.4
D	30.97	9.0	29.1
E	13.18	4.0	30.3
F	13.62	4.5	33.0

することが望ましく、それが不可能のときには少なくとも実験中の最低および最高の気温を付記する必要がある。

なお、温度に関連して一言追加すると、試験中は内部摩擦のため試験片の温度が上昇する。それゆえ試験結果は繰返し速度にも影響されるものと想像される。

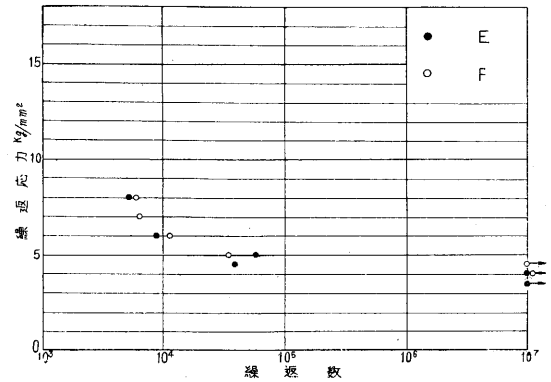
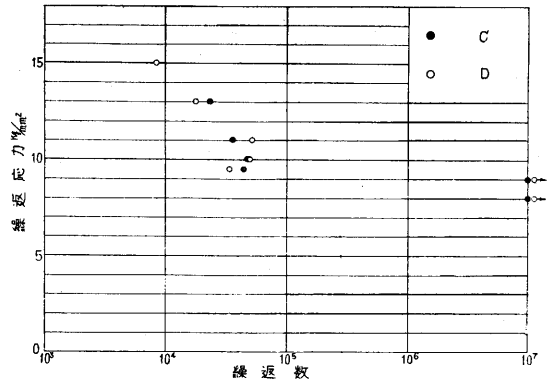
5. 結 び

ポリエステル積層板の疲労試験は温度の影響を受け易い。それゆえ試験方法にある基準を定めておくことが望ましい。今回の実験はこの見地からは不十分なものであるが、現在のところ疲労試験のデータがほとんどないから多少の参考にはなるかと思う。

本実験は日本触媒化学工業 K.K. のご好意によるところが大きい、同社とくに同社の嶋田吉英博士、柿崎義一両氏に厚く謝意を表する。(1956. 7. 10)

文 献

- (1) 大井, 小倉: ポリエステル積層板の疲労強さについて 自動車技術 Vol. 9, No. 2, 1955, p. 47.



上・第 3 図 下・第 4 図

次号予告 (10月号)

観測ロケット特集号

観測ロケット用気圧計としての ピラニゲージ	富永 五郎 岡田 繁
多段ロケットの風洞試験	玉木 章夫 三石 智
ロケットの光学的追跡に関する基礎資料	植村 恒義 中村 日色
海外事情	
アメリカに出張して	岡本 舜三
速 報	
ラジアルガスタービンの研究(第2報) - 試作ラジアル空気タービンの特性	水町 長生 内田 正次 金子 和男
軸応力を受ける板の硬さ試験	久保慶三郎 川崎 寛司

正 誤 表 (8月号)

頁	段	行	種 別	正	誤
320	左	11		$(\Sigma B_v)^2 - (\Sigma A_v)$ $(\Sigma \Gamma_v) = 0$	$(\Sigma B_v)^2 - (\Sigma A_v)$ $(\Sigma r_v) = 0$
321	左		第 4 図	$\frac{ S_{20n} }{F} = 0.1mm$...	$\frac{ S_{20n} }{E}$ = 0.1mm...
19	左	上15	本 文	パラメーター	パラメーター
"	右		第 5 図		
"	"		縦軸の数字	0	1.00
"	"			0.05	1.05
"	"			0.10	1.10
"	"	下4	本 文	Traube	Traibe